

大阪・大庭北遺跡

おおばきた



(大阪東南部)



め、急遽、発掘に至つたものである。

1 所在地 大阪府守口市金田町

2 調査期間 一九八三年(昭58)一月～一九八四年二月

3 発掘機関 大阪府教育委員会

4 調査担当者 西口陽一

5 遺跡の種類 集落跡

6 遺跡の年代 古墳時代後期・平安時代後期～鎌倉時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

大庭北遺跡は、守口市の市街地から北東へ約三km、標高三mの沖積地上に位置している。今回の調査は、府営住宅建て替えに先立つ

もので、試掘の結果、遺跡の存在が新たに知られた。

(西口陽一)

(1)

・「可為□□□□人□□也」

221×(48)×4 081

・「□□□□□□□□□□

科備米三斗也仍所定如件

正和四年二月 日 (花押)

墨はとんでおり、高く残った墨書痕跡により判読した。

木簡が出土した遺構は、調査区の北東部で検出された東西溝中で、木簡は、埋土内部と埋土上面から、二片に分れて出土した。瓦器椀や土師皿が伴出しており、鎌倉時代末期に比定できる。遺跡の性格としては、平安・鎌倉時代の井戸や土器群・溝・里道等が検出されたので、ごく近辺に集落の存在が考えられ、中世の勝尾寺文書等で有名な「大庭荘」の一角である可能性が高い。

8 木簡の篆文・内容